

私 という宇宙

神無子

私という名の宇宙が傷つくと

私の臓器はたわいなく震える

傷ついた宇宙は苦しくて哀しい

だから

私という名の宇宙は

どこまでも拡がってねじれていく

私という名の宇宙の想いは

命のように光りながら消えていく

昨日までの屈辱の記憶さえも

どこからかねじれて拡がっていく

目を閉じると宇宙はある

出逢えた人達と去ってしまった人達と

出会うこともなく去ってしまった

人達すべての

魂の轟めきがきらきらとして

私という宇宙はいつまでもずっと

そこにある

そこは

死も包んで拡がっていく

始まりも終わりもない膨張は止まらない

膨張は忘却にも似て

忘れたことさえ忘れてしまうほど

拡がっていく

宇宙の外には何があるのだろうか

そう思うだけで私はねじれる

地球の外の

太陽系の外の

銀河系の外の

外の外の



内でも外でもない私という宇宙は

今届いたばかりの光を抱いて

ねじれて拡がっている

気がついたこと

神無子

同じ重さの命がぎっしりと

この星には詰まっいて

ミクロの私でも

いつ死ぬのかびくびくしながら

今日を生きている

同じ重さの命なのに

塵のごとく軽んじてしまう人がいて

同じ重さの命なのに

私のどこにもかすりもしないで

飛び去ってしまう誰かがいる

同じ重さの命なのに

ちっとも同じ命じゃない

同じ重さの命がぎっしりと

この島には詰まっています

私は毎日なんとか生きています

同じ重さの命なのに

知らないうちに知らない命が

毎日失われていく

同じ重さの命なのに

知らない命は重くない

酷ければ惨いほど知らない命が

テレビに映る

ちっとも同じ命じゃない

同じ重さの命がぎっしりと

私の中に詰まっています

なぜ生きているかと問うてくる

何を生きるのかと問うてくる

深く深く問うたところで

存在が変わることはない

私の命が重くなることはない

それなのに私は

私の命だけは軽くなるまいと

まわりを見渡して比べてしまう

同じ重さの命だなんて思ってもいない

誰の命も軽んじたり忘れたりしたくない

できないことを認めて努力したい

でも

塵のように小さくて

羽のように軽い命こそが

私の命そのものなのだ

今 気が付きました